

## ワクチンと予防接種について

各自治体で、新型コロナウイルスワクチンの接種が始まりました。メディアでは、効果や副反応の話題が取り上げられ、新型コロナウイルスワクチンの接種に不安を感じている方もいるのではないのでしょうか。

ワクチン接種は、病気の重症化を抑える効果が期待され、新型コロナウイルスワクチンも同様の効果が期待できます。正しい知識を身に付け、予防接種に備えましょう。

### 1. ワクチンについて

ワクチンは、危険な感染症を予防するための医薬品です。  
一般的なワクチンは、病気の原因となるウイルス等の毒性を弱めたり、感染力を失わせたものを用いて接種します。  
一方、新型コロナウイルスワクチンでは、「mRNA ワクチン」、  
「ウイルスベクターワクチン」が用いられます。



#### 【ワクチンの種類と特徴】

ワクチンの種類	特徴	主な用途
mRNA ワクチン (メッセンジャー RNA ワクチン)	新型コロナウイルスの感染に関わる部分の設計図を用いたワクチン。 設計図の特徴を体内の細胞に記憶させることで、免疫を獲得する。 本物のウイルスは摂取しないため、安全性が高い。	新型コロナウイルス
ウイルスベクター ワクチン	無害の別のウイルス（ベクター）に、新型コロナウイルスの感染に関わる設計図情報を組み込んだワクチン。 体内で設計図の特徴を記憶させることで、免疫を獲得する。安全なウイルスを代用するため、安全性は高い。	新型コロナウイルス
生ワクチン	ウイルスの毒性や感染力を極度に弱めて作られたワクチン。微弱ではあるが感染力は残してあるため、接種後に症状が発症する場合がある。 獲得できる免疫は強い傾向がある。	おたふくかぜ はしか など
不活化ワクチン	ウイルスの毒性や感染力を無くして作られたワクチン。獲得できる免疫は弱い傾向にあるため、複数回の接種が必要となる。	破傷風 インフルエンザ ジフテリア 肺炎球菌 など

## 2. 新型コロナウイルスワクチン接種の効果と副反応について

予防接種は、ワクチン（抗原）を接種するため、副反応が生じる可能性があることは否定できません。しかし、各社製品とも大きな効果が期待できるとされています。

【ワクチンの比較（参考：いい医者.com）】

	ファイザー社	モデルナ社	アストラゼネカ社
有効性(効果)	95%	94.1%	62～90%
接種回数	2回	2回	2回
主な副反応 (多い順)	これらの副反応は、接種後1～2日後に起きることが多く、大半は数日で消えます。 ①接種部位の痛み ⑤寒気 ②倦怠感 ⑥発熱 ③頭痛 ⑦接種した場所の腫れ ④筋肉痛		

※ワクチンの種類については、接種時期に供給されているワクチンを接種することとなるため希望するワクチンを選択して接種することはできません。

また複数のワクチンが供給されている場合も、2回目の接種では1回目に接種したワクチンと同じ種類のワクチンを接種する必要があります。



### (1) 急激なアレルギー反応（アナフィラキシー反応）について

アナフィラキシー反応は、アレルゲン等が体内に入ることによって、臓器や全身にアレルギー症状が現れ、生命に危機が生じる過剰な反応を指します。

アナフィラキシー反応の原因は、食品、虫さされ、薬、化学物質があります。

【アナフィラキシーの症状】

発症部位	主な症状
皮膚の症状	じんましん、痒み、顔面や唇の腫れ
呼吸の症状	発声困難、喉の異物感、喘息、呼吸困難、チアノーゼ
血圧・心臓の症状	動悸 めまい、倦怠感、失神
胃腸の症状	吐き気、嘔吐、腹痛、下痢



## (2) 他国の接種状況とアナフィラキシー反応発症状況 (2021年3月時点)

日本の新型コロナウイルスワクチン接種の多くはこれからのため、アナフィラキシー反応を含む副反応のデータは多くありません。

すでに多くの人が接種している海外での急激なアレルギー反応(アナフィラキシー反応)発症状況は、ファイザー社製ワクチンでは190万人中21人(対象地域:アメリカ)、モデルナ社製のワクチンでは400万人中10人(対象地域:アメリカ)、アストラゼネカ社製ワクチンでは500万人中41人(対象地域:イギリス)という報告があります。

## (3) ワクチン接種にあたり注意が必要な人(厚生労働省HPより)

ワクチン予防接種を行うにあたり、「予防接種を受けることができない人」、「注意が必要な人」について注意事項が記載されています。

**次に当てはまる場合や健康面に不安がある場合等は、必ず担当者、担当医に伝え、指示を受けてください。**

### 【受けることができない人】

- ①明らかに発熱している人
- ②重い急性疾患にかかっている人
- ③上記①～②以外で予防接種を受けることが不適当な状態にある人

・アナフィラキシー、全身性の皮膚・粘膜症状、呼吸困難、頻脈、血圧低下などを疑わせる症状がある場合

### 【注意が必要な人】

- ④抗凝固療法を受けている人(血小板減少症、凝固障害等)
- ⑤過去に免疫不全、または近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- ⑥心臓、腎臓、肝臓、血液疾患などの基礎疾患がある人
- ⑦過去に予防接種を受けて、接種2日以内に発熱や発疹等の症状が出た人
- ⑧過去にけいれんを起こしたことがある人



## 【参考】

## 変異株とワクチンについて

現在確認されている新型コロナウイルスの変異株は数種類あり、変異株へのワクチン有効性について、日々様々な研究、検証が行われています。

横浜市立大学医学部から、ファイザー社製ワクチンを2回接種した医療従事者105人の血液に抗体があるのかを調べた研究結果が報告されました。

データから、ワクチン接種は多くの変異株に有効である可能性が高く、1回より2回接種するほうが高い効果が期待できることが示されました。



ワクチンの接種回数及び株	従来株	イギリス株	南アフリカ株	ブラジル株	カリフォルニア株	ニューヨーク株	インド株	由来不明
1回接種	57%	18%	21%	16%	39%	55%	37%	34%
2回接種	99%	94%	90%	94%	97%	98%	97%	97%